



Q1:精神分析的な視点を学んでみたいけれど、どこから手をつけたらいいのだろう？

A1:まずは「臨床セミナー」がお勧めです。臨床セミナーは、現代の子どもの臨床に欠かせないトピックや臨床課題を探求します。今年のテーマはアセスメント。非構造的な現場での精神分析的アセスメントを実践的に学びます。

Q2:心理療法を学んでいきたいが、構造化された臨床の場を持たない場合は？

A2:「初学者向けワークディスカッション」は、子どもから思春期青年期の事例を検討します。病棟やクラスでの観察、低頻度の面接など、多様な臨床素材や観察素材を歓迎します。

Q3:乳幼児の発達支援や家族支援を精神分析的に検討する場を探している。

A3:ぜひ「発達ワークディスカッション」をご検討下さい。本研修は「発達」を軸に、心理職に限らず乳幼児に関わる臨床現場の方たちと子ども・家族関係をじっくり考えるグループです。

Q4:面接、授業観察や親面接などSC活動に精神分析的思考を活かす研修はないか？

A4:スクールカウンセリングに特化したワークディスカッション形式の GSV をご検討下さい。スーパーヴァイザーは多様な職場に精神分析を応用する実践に造詣が深い鈴木誠氏です。

Q5:個別の子どもの心理療法ケースについて専門的な指導を受けたい。

A5:「子どもの精神分析的セラピーGSV」が最適です。(スーパーヴァイザー:小笠原貴史氏)↗

サポチル関東 研修受講のヒント

どの研修を受けようか？と迷ったら

グループで継続的に自身や他者の事例を検討することを通して、精神分析的な視点を深め、臨床感覚を磨きます。サポチル認定資格取得に必要な単位認定されます。

Q6:発達障害への精神分析的アプローチをじっくり学びたい。

A6:「自閉症スペクトラム文献講読セミナー」を新規開講します(講師:福本修氏)。古典から自閉症の概念化を紐解き、現代精神分析の幅広い発展を見渡します。

Q7:現在子育てや介護のために実践から離れているが、専門性を維持したい。何か受けられる研修はあるか？

A7:「臨床セミナー」は通年6回のオンライン開催です。単発では5月に2回シリーズで開催する「思春期セミナー」では、思春期の心性に造詣の深い岩宮恵子氏にご講演頂きます。いずれも臨床心理士の更新ポイント対象、もしくは規定を満たした場合に申請予定です。

Q8:色々な研修を受けていきたい。何か割引制度はないか？

A8:サポチルの会員になると、文献講読セミナーや単発セミナーの割引があります。例えば「自閉スペクトラム文献講読セミナー」は一般6万円(10回/年)ですが、正会員は1万円割引で5万円です。他に会員になると、定期のメールマガジンや会報、会員対象の研究会があり横の繋がりができます。正会員の年会費は1万5千円です。

★HP お知らせ：<https://sacp.jp/2025/12/01/8320/>

★申込 URL：<https://forms.gle/nBMw9pBxLsgGXwps7>

※お問い合わせ：kanto.kenshu@sacp.jp